

総務省とこれからの地域運営を考えるワークショップを開催します！

～貝取・豊ヶ丘地域の想いを伝え、未来を考える多世代型のエリアミーティング～

1 全国2市で実施

少子高齢化や感染症拡大の結果など地域の担い手不足が明らかになる中、多摩市では「(仮称)地域協創(ちいききょうそう)」と呼ぶ地域コミュニティを支えていく共助の仕組みづくりを進めています。

また、総務省では、多様な担い手による声かけ、見守りや、買物支援などの共助活動を実践する「地域運営組織」の形成や持続的な運営に向けて、「地域運営組織の形成及び持続的な運営に関する調査研究事業」が実施されています。

この一環で、本年度は全国2地域を対象に、地域運営組織における問題や課題、成果、他団体や行政との連携、今後の展望などについて、関係者から意見を伺うワークショップが開催され、そのうちの1つが多摩市となります。多摩市では地域にお住まいの方へも参加を呼び掛けています。

2 ワークショップ開催内容

タイトル：貝取・豊ヶ丘地域の想いを伝え、未来を考える多世代型のエリアミーティング

開催日時：令和5年2月23日(木・祝)午後2時～4時

開催場所：貝取こぶし館1階ホール

テーマ：第2回「たくさんの人が無理なく楽しくかかわる地域とは」

定員：20名

※1月18日(水)に第1回「10年20年先も残したい大切なもの探し」を実施しました。

エリアの大部分が多摩ニュータウン開発でつくられた貝取・豊ヶ丘地域は、住民主体の各種活動が活発であったが、近年は高齢化の進行が市内でも進み、各種担い手の不足や担い手の重複が見て取れます。第2回では、第1回で出てきた地域の記憶や大切にしたい風景をもとに、多種多様なたくさんの人がどのように無理なく楽しく地域と関われるかを検討します。

3 今後の展開

今回のワークショップ開催を通じて発見した課題や、ポジティブな地域の変化・兆しを、これからの地域づくりの新たな担い手・担い方の種として活かすとともに、総務省や他自治体での同様の取り組みと相互に共有・連携することで、全国的な課題である今後の地域の担い手づくりや地域運営の在り方を考えていく取り組みに発展させていきます。

市としては、令和5年度から地域担当職員の試行やそうした仕組み・制度を多摩市自治基本条例などにどのように適用していくかについての議論を進めていきます。

<別添資料>・ミーティング告知チラシ

問い合わせ

企画政策部 企画課

電話： 042(338)6813